

MINATOビジョンの策定方針及び策定に向けた令和8年度の取組について

1 概要

区では、港区基本構想、港区基本計画、港区実施計画を統合した新たな総合計画「MINATOビジョン」(以下「ビジョン」といいます。)の策定に向け、取組を進めています。

令和7年度は、ビジョンの到達点となる将来像を取りまとめるとともに、今後の策定作業の方向性となる「MINATOビジョン策定方針」(以下「策定方針」といいます。)を定めました。

令和8年度は、この策定方針に基づき、区民意見を反映しながら、政策、施策等の検討を進めていきます。

2 港区の将来像 資料3-2

ビジョンに掲げる将来像は、計画体系の最上位に位置付けられる区の目指すまちの姿であり、現行の港区基本構想部分に相当します。

将来像の検討に当たっては、全区民アンケート等を実施し、港区に関わる多様な主体の意見を聴取しました。各取組で得られた意見を踏まえつつ、区民参画組織「MINATOビジョン・タウンフォーラム」及び学識経験者等で構成する「MINATOビジョン コ・デザイン会議」における検討を踏まえ、将来像として下表のとおり取りまとめました。

区民が中心となって作成した将来像を軸として、政策、施策等を設定します。

分野	将来像
全体	今を引き継ぎ、社会課題を乗り越え、未来を創る。 「歴史と未来」「都会と自然」「地域と世界」が交差し、一人ひとりが自分らしく、幸せに暮らせるまち
子ども・子育て	子どもとともに描く。 今を生きる子どもを未来へつなぐまち
福祉・保健	孤立させない地域の輪をつくる。 お互いが支え合い、一人ひとり自分らしく暮らせる健康福祉先進都市
街づくり	“ひと”をまんやかに“港区ならではの”をつくる。 これまでを紡ぎ、未来へ駆ける心躍るまち
環境・リサイクル	みんなの意識と行動が未来を変える。 自然が暮らしを彩るサステナブルシティ
防災・危機管理	今と未来を守るために備える。 住民同士が支え合う防災・危機管理モデルシティ

産業・地域振興	文化と芸術がまちを織りなす。 人と企業が共創するグローバル・クリエイティブシティ
教育	今日までを大切に、明日を考え、未来へ進む。 学びの種が芽を出し、世界へ伸びていく教育都市

3 MINATOビジョン策定方針 資料3-3 資料3-4

策定方針は、ビジョンの具体的な検討を進めるための指針として位置付けるものです。

策定方針では、各計画の統合や計画体系の見直し、行政経営との一体化など、令和6年度に示したビジョンの策定に向けた方向性に加え、2040年代の社会状況動向等を見据え、分野を超えて全庁的に取り組む課題を整理しています。

4 令和8年度に実施する区民意見反映の取組

将来像を踏まえ、現行の港区基本計画、港区実施計画に相当する政策、施策部分の検討を進めていきます。

(1) アンケート

検討に当たっては、区民アンケート及び団体アンケートを実施し、区民等の意見を積極的に取り入れます。

- ア 対象 区民等（区内在住者、在勤・在学者）
事業者等（事業者、大学、NPO法人等）
- イ 設問（予定） 2040年代を見据え、区に取り組んでほしいこと等
- ウ 実施方法 広報みなと、SNS等により周知
Web又は郵送等により回答
- エ 期間 令和8年4月1日（水）から5月15日（金）まで

(2) キャッチフレーズ投票

ビジョン全体を象徴するキャッチフレーズを作成し、周知等に活用します。子どもたちがキャッチフレーズの案を複数作成し、区民投票により決定します。

5 今後のスケジュール（予定）

- 令和8年 4月 区民アンケート、団体アンケートの実施
- 6月～ キャッチフレーズ（案）の作成
- 10月 MINATOビジョン（素案）の作成
- 11月 素案のパブリックコメント実施
キャッチフレーズ投票の実施
- 令和9年 1月 MINATOビジョンの決定
- 4月 MINATOビジョン計画期間開始

港区のこれまで

伝統と新しさが、出会い続けてきた場所

港区には、時代を超えて受け継がれてきた歴史があります。

徳川将軍家の菩提寺となった増上寺などの寺社仏閣が多く残り、明治時代に日本初の鉄道が開業、昭和には東京タワーが建設されました。

地域に根差した文化を守りながら、社会の変化とともに、東京、さらには日本の中心となる国際都市として発展を続けてきたまちです。

鉄道・船・飛行機と結ばれた充実した交通網に加え、メディアが集まり情報発信の拠点となっています。

博物館や美術館が文化を育み、企業や学校、病院が集うまちには、国内外から多くの人が行き交っています。

東京の中でも水辺に面しているのは、港区の特徴です。

台場や芝浦港南など、海や運河が都会の風景の中に広がり、四季の移り変わりを楽しめる公園もあります。

都市の利便性と自然の豊かさ、その両方を感じられる、これこそが港区の魅力です。

そして、港区には「人」の温かさがあります。

発展したまちの中でも、昔ながらの商店街や町会・自治会が息づき、人と人とのつながりが根付いています。

多くの外国人が暮らし、駐日大使館の半数以上が集まり国際性に富んだ港区は、多様な文化が調和しながら、ともに過ごしています。

この混ざり合う土壌が、人の温かさや新しい出会いを育んでいます。

受け継がれてきた歴史や文化を大切にしながら、新しさを受け入れてきた港区。

その歩みの積み重ねが、今の港区を形づくっています。

一方で、将来を見通すと、全国的に人口減少が加速し、超高齢社会が進行していきます。働く世代の人口減少により、労働力が不足する時代が到来します。港区においても、地域コミュニティの衰退や首都直下地震をはじめとする自然災害の脅威など、都心特有の様々なリスクが待ち受けています。

こうした社会課題を乗り越え、明るい未来へ進んでいくために、2040年代という将来を見据えて、希望ある港区の姿を描きます。

2040年代の港区の将来像

今を引き継ぎ、社会課題を乗り越え、未来を創る。
「歴史と未来」「都会と自然」「地域と世界」が交差し、
一人ひとりが自分らしく、幸せに暮らせるまち

歴史と未来

新しい風が吹く
まち

これまで大切にしてきた歴史や文化を礎に、時代の変化を受け止め、先端技術を活用しながら、新たな価値を創造し、日本有数の都市として新しい風を巻き起こしています。人々が出会い、アイデアが生まれ、暮らしが豊かになっていく。次の世代へとつながるこのサイクルが、港区を明るい未来へといざなっています。

都会と自然

美しく心やすらぐ
まち

誰もが魅力を感じる都会でありながら、そこには心が穏やかになる居場所があります。輝き潤う水辺の景色や木漏れ日が差し込む公園。まちがデザインされていく中で、水や緑が彩を織りなしていく。美しい都市とともに、自然を身近に感じながら、心癒されるやさしい日常を過ごしています。

地域と世界

みんなが支え合う
まち

港区には、暮らす人だけでなく、働く人や訪れる人も多く集い、にぎわいを見せています。年齢や国籍に関係なく、世界中から集まった人同士が交流し、分け隔てなくつながっています。互いに助け合い、支え合う。多様性を受け入れる包容力と思いやりの心が、地域や世界を超えて広がり、誰もが安心して暮らせるまちになっています。



これまでの歩みを大切にしながら、社会課題を乗り越え、新しい未来を創っていく。
港区という輝く舞台上、一人ひとりが自分らしく、幸せに過ごせるまちが実現しています。

港区が大切にしていこう

理想の未来を実現するためには、想いを一つにすることが不可欠です。
誰もが幸せを感じられることを目指し、
港区に関わる人たちが協力し合いながら歩みを進めていきます。

一人ひとりの幸せを実現する

人々の境遇や立場は様々です。
そのような中でも、一人ひとりの気持ちや考えを大切にしながら、
人を思いやる心と地域のコミュニティを育てていきます。
人と人との絆を紡ぎながら、子どもから大人まで港区に関わる全ての人が幸せ
を感じられるまちを実現していきます。

地域みんなで未来をつくる

港区には、地域に想いを寄せる、たくさんの人たちがいます。
区民をはじめ、働く人や学ぶ人。
そして、企業や学校、NPO、町会・自治会、商店会など。
港区という輝く舞台上で、それぞれが可能性を最大限に発揮し、
港区に関わる人が手を携えながら、一緒に未来をつくっていきます。

子どもたちとともに描く。 今を生きる子どもを未来へつなぐまち

今を生きる子どもたちも、やがて大人になります。
子どもも大人も、今だけでなく将来にも希望を持てるまちをつくるのが、未来の子どもたちの希望につながります。
希望のサイクルが将来へと続き、誰もが笑顔で過ごせるまちが実現しています。

子どもたちがのびのびと過ごせるまち

2040年代の港区では、遊具が充実した公園や安全に遊べる場所、わくわくする環境が整い、子どもたちがのびのびと過ごせるような、子どもが一人でも安心して出歩けるまちになっています。子どもの成長に合わせて、学んだり、ゆっくり過ごせる居場所がいつでも誰にでもあり、一人ひとりの権利が守られ、やりたいことを自由に選べるようになっています。

子育てとやりたいことを両立できるまち

子どもを望む人が理想とする人数の子どもを安心して生み、育てられるようになっています。必要な数の保育施設や学童クラブなどが整い、子育てと仕事など、やりたいことの両立につながっています。きめ細かな保育サービスが充実し、子育てをしながらでも介護に負担なく取り組めるなど、多様な生活スタイルを実現することができています。

子どもを地域で育むまち

子育てをしている人だけでなく、全ての人が地域との交流を通じて、様々な人々と出会い、学び、助け合いながら、子どもを地域で育てています。小さな子どもから中高生、保護者まで、誰もが一人で悩みや苦勞を抱えるのではなく、声を上げづらい人たちの声も拾いながら、地域で見守り、支え、相談できる環境が身近にあることで、子どもや家庭の孤立がなくなっています。



将来へ希望のサイクルがつながる、笑顔あふれるまちへ。
子どもや大人にやさしく、誰もが将来に希望を持って、笑顔で過ごせるまちになっています。



孤立させない地域の輪をつくる。 お互いが支え合い、一人ひとり自分らしく暮らせる健康福祉先進都市

高齢者や障害者、生活に困っている人など、誰にでも社会の中で居場所があり、自分に合ったサポートを受けながら、健康で安心して穏やかに暮らしていけるまちになっています。

誰にでも居場所があり、 互いを支え合うまち

互いに声をかけやすい環境をつくることで、気軽なコミュニケーションを通じて支え合う地域のつながりが、都心ならではの形で築かれています。集合住宅で起こりやすい社会的孤立を乗り越え、子どもや若者、高齢者まで、障害の有無などにかかわらず、趣味や仕事など、それぞれが叶えたいことを実現し、活躍できる居場所があり、社会から孤立する人がいなくなっています。

身体に向き合い、 健やかに暮らせるまち

一人ひとりが心身の体調に気を配りながら、健康管理や健康づくりに取り組むことで、健やかな生活を送り、健康寿命の延伸につながっています。病気の際には、身近な診療所から大きな病院まで、治療方法など多様な選択肢の中から、自分の希望に合った医療サービスを引き続き受けることができます。妊娠しているときや出産した後も、助産師や同じ境遇の人と悩みを相談できるなど、互いに支え合いながら安心して子どもを産める環境が整っています。

ニーズに合ったサービスが受けられるまち

介護サービスや障害福祉サービスを受けられる場所が身近にあり、介護や支援を必要とする全ての人に情報が届き、安心してサービスを利用できるまちになっています。介護や障害福祉の現場で働く人がいきいきと働ける環境が整っており、介護や障害福祉を志す人が増え、高齢者や障害者などは、ゆとりある環境の中で、手厚いサービスを受けることができます。



2040年代の港区では、様々な人が手を携え、支え合う地域社会が実現しています。誰もがやさしさを感じられる居場所の中で、みんなが自分らしく暮らしています。

“ひと”をまんやかに“港区ならではの”をつくる。 これまでを紡ぎ、未来へ駆ける心躍るまち

2040年代の港区は、歴史と新しさが調和しながら、美しい街並みや水辺の潤いに包まれた快適な環境が備わっています。誰もが安心して暮らせる都市の中で、地域のコミュニティが活気を生み、にぎわいと癒しに満ちた人中心のまちが実現しています。

港区の魅力が際立つ 美しいまち


東京タワーや歴史ある建物など港区らしさを感じさせる風景が残りながら、大使館や企業が集まる多様性・先進性と共存し、まちの個性を生かしながら美しくデザインされた都市となっています。運河や台場の海にはイルカが訪れるほどきれいな水辺が広がり、四季折々の花や木々がまちを彩ります。最先端のモビリティが快適で安全な移動を実現し、歩道は広く、カフェなどのにぎわいにも活用されています。防災や防犯、環境保全など、あらゆる面から持続可能な生活を支えるインフラの整備が進んでいます。

人々の暮らしと活動を 支えるまち

港区は、区民はもちろん、港区に関わる全ての人々の活動を支えています。世界中から訪れる人々が言葉の壁を感じることなく交流しています。子どもが一人で外出できるほど安全で、まち全体がバリアフリーで高齢者や障害者も安心して過ごせる、誰にとっても過ごしやすいまちになっています。在勤者や在学者も、地域の活動やお祭りに参加するなど、様々なコミュニティが街中に活気をもたらしています。

みんながワクワクする まち

水辺では、多くの人々が潤いを感じながら散策やイベントを楽しみ、海水浴を満喫しています。公園では、子どもたちが元気に遊び、立ち寄る人は緑に囲まれながらリラックスして過ごしています。カフェやレストランでは、様々な人が集まり、世代や文化を超えて日々新しい出会いが生まれ、人と人との輪が広がっています。港区は、日常の中に心躍る瞬間があり、笑顔や楽しさにあふれています。



独自の魅力や強みを生かしながら、いつでも人を中心にまちづくりが進んでいます。
港区に関わる全ての人々のワクワクする心が、未来へつながるにぎわいと癒しに満ちたまちを実現しています。

みんなの意識と行動が未来を変える。 自然が暮らしを彩るサステナブルシティ

個人、企業、行政、それぞれのアクションが、持続可能な港区への大きな一歩となります。
都市の便利さと自然の豊かさが美しく調和した新しい暮らしが、未来へと続いていきます。

脱炭素型のまち

2040年代の港区は、サステナブルに調達された再生可能エネルギーがまちの隅々まで行き渡り、まちづくりや防災など様々な機会を捉えながら持続可能な発展を実現しています。
エネルギーステーションが街中にあり、環境負荷の少ない電気自動車や水素自動車などエコフレンドリーな移動が当たり前になっています。
区民や企業、行政が同じ方向性や価値観を共有しながら連携し、新たな技術を積極的に取り入れ、世界に誇れるエネルギー先進都市となっています。

都会と自然が共生するまち

まちが発展する中でも、身近に緑があふれ、みんなが楽しめる水辺があり、そして、星空が見える空気のきれいなまちになっています。
公園や道路をはじめ、様々な場所で緑が一層豊かになり、多様な生きものと共存ができています。
まちの発展と自然保全のバランスが保たれ、「自然と共生する都市」が実現しています。

3Rで循環型のまち

リデュース、リユース、リサイクルが人々の生活に馴染み、サーキュラーエコノミーが確立しています。
食品ロスがなくなり、ペーパーレスが推進され、ごみが排出されにくくなっています。
不要なものは「譲り合いスペース」で再利用され、地域全体で資源を大切にすることを意識が根付いています。
ごみがきちんと分別され、資源を無駄なく循環させる社会が実現しています。
港区で生活する全ての人々が「環境問題を自分ごと」として捉え、行動が変わっています。



2040年代の港区は、一人ひとりが主体となって持続可能なまちに。
まちの発展と自然が共生し、誰もが安心して暮らせる未来があります。

今と未来を守るために備える。 住民同士が支え合う防災・危機管理モデルシティ

地域の絆が強固に結びつき、テクノロジーも積極的に活用しながら、災害に強く、犯罪被害のないまちで、誰もが安心して暮らすことができます。

一人ひとりの日々の備えと互いへの思いやりが、様々な危機を克服し、まち全体の安心を大きく高めています。

コミュニティで 助け合うまち

日常から住民同士が顔の見える関係を築くことで、災害時の助け合いの精神が育まれ、犯罪の抑止にもつながっています。

防災・防犯組織の結成も進み、若者をはじめ、防災や防犯を「自分ごと」として考えながらコミュニティに参加する人が増え、日頃の訓練や対策が万全で、地域の暮らしの安全を支える力となっています。

災害を低減するインフラ整備が進んだまち

マンションをはじめとする全ての建物の不燃化や老朽化対策が進み、災害時には緊急車両が通行できるよう道路の安全が確保されるなど、自宅に必要な支援を受けながら安心して生活できる、強固な基盤が整っています。

万が一避難が必要となった場合でも、性別や障害の有無などに配慮され、ペットとも住民と一緒に過ごせるなど、多様なニーズに対応した避難場所が整備されています。

帰宅困難者や延焼などの対策も整っており、災害が起こったあとの安全も確保されています。

テクノロジーを活用し 暮らしを守るまち

2040年代の港区では、テクノロジーの発展が、様々な災害・犯罪対策に生かされています。

個人が持つ情報デバイスは進化を遂げ、防災・防犯に関する情報は外国人を含めて全ての人に正確かつ瞬時に発信、住民もテクノロジーを正しく活用し、確実な対策を講じています。

人と地域がつながる港区では、こうしたテクノロジーの積極的な活用により、災害に強く、犯罪被害のない、住民が安心して暮らせるまちを実現しています。



テクノロジーを積極的に活用しながら、地域で支え合う未来の防災・危機管理のまちへ。
一人ひとりが地域の担い手としての意識を持ち、安心して暮らせるまちが実現しています。



文化と芸術がまちを織りなす。 人と企業が共創するグローバル・クリエイティブシティ

2040年代の港区は、経済、文化芸術、国際性、地域という多様な価値が重なり、区に関わる全ての人々が主役となって挑戦し、新たな価値を創造するまちへと発展しています。誰もが心豊かに暮らせる未来が、そこには広がっています。港区のブランド力が確立され、世界から多くの人や企業が集う国際経済都市として、最先端の技術を創造し、イノベーションを巻き起こしています。

創造と交流があふれ、 進化するまち

スタートアップをはじめとする多様な企業や大学、地域産業が連携し、文化芸術やテクノロジーを掛け合わせた新たな価値が創出され、世界に希望と活力を届けています。ビルはシェアオフィスやクリエイティブスペースとして有効に活用されており、個人店や商店街には国内外から多くの人々が訪れ、昼夜問わず、まちに活気にあふれています。水辺エリアは世界中の観光客が訪れる憩いの場となり、港区の魅力が一層高まっています。観光も産業も「港区らしさ」を大切に、経済性だけに偏らない個性を引き出すまちづくりを、地域が一体となって進めています。

世代も国籍も超えて、 つながりが広がるまち

町会・自治会などの地域コミュニティは、企業や学校とも連携し、デジタルとリアルを組み合わせるなど、誰もが参加しやすい新たな形へと生まれ変わっています。地域活動や様々なイベントも盛んに行われ、世代や国籍にかかわらず安心して暮らせる地域のつながりが育まれています。「港区に関わる全ての人々が主役」となり、地域への愛着が根付いたまちになっています。

世界と歴史が出会う、 文化が息づくまち

港区は、世界とつながる玄関口として、多様な人々が訪れ、国際色豊かな都市へと発展しています。外国人が地域に愛着を持ち、大使館等と地域コミュニティの交流など、多文化共生社会が実現し、歴史的建造物と先端的都市機能が調和した中で、一緒にまちづくりに参加しています。子どもの頃から外国人と関わる機会があり、日本の伝統や文化を大切に守りながら、世界の舞台芸術や文化イベントが催されるなど、国際的な拠点として成長し、地域性と国際性が調和した「世界に誇れる文化芸術都市」として、その独自性を輝かせています。



文化芸術と多様な交流が広がり、誰もが安心して暮らせるコミュニティがにぎわいを生み出しています。経済、文化芸術、国際性、地域の価値が重なり、日本の未来をリードする都市モデルを築いています。



今日までを大切に、明日を考え、未来へ進む。 学びの種が芽を出し、世界へ伸びていく教育都市

港区の歴史・文化・伝統を大切にしながら、テクノロジーを生かした未来へ、世界に拓かれた学びの形が育まれています。一人ひとりの個性が大切にされ、誰もが自分らしく関わり、地域でともに育まれ、様々な学びに触れています。

安全・安心ないきいき したまち

子どもたちが自分らしく学び、自ら考えながら、場所に捉われずのびのびと成長できる教育環境が整っています。学校にとどまらず、家庭や地域でも、それぞれの個性や気持ちに合わせた多様な学びの形がつけられています。教員だけでなく、保護者や地域の人々も一緒に関わるものとして広がり、互いの対話によって、信頼し合える関係が築かれています。港区全体が子どもたちの未来をやさしく育むまちとなり、安心して安全に、楽しく学べる毎日が実現し、子どもたちは社会と関わりながら未来を共につくる力を身に付けています。

歴史や文化に親しむ 心が育つまち

港区の歴史や文化、伝統を次の世代へと受け継ぎながら、家庭や地域コミュニティの中で思いやりやさしさが育まれています。その中で、自分の国や様々な地域のアイデンティティを理解し、大切に思う心や道徳心が養われています。学びの場は、地域にも広がっています。図書館は身近な学びの場として活用され、公園などまちの様々な場所が気づきや発見の場となっています。企業や大学といった、港区ならではの地域とのつながりを生かし、子どもだけでなく高齢者までに、誰もが生涯を通じて自分のペースで学びを楽しんでいます。こうした学びの積み重ねが、自分たちのまちや国を思う豊かな心を育てています。

テクノロジーで人の 可能性を高めるまち

テクノロジーの力を工夫して活用することで、多彩な学びが広がり、創造性や判断力など、人間らしい力が更に高まっています。テクノロジーの進歩は、地域と世界の距離を縮め、異文化交流を通じて、世界中の多様な文化や考え方に触れながら、世界全体を見渡す広い視野で学ぶ機会が自然と増えています。技術が発展する中でも、スポーツや体を動かす機会が大切にされ、人の感性やひらめきがますます輝き、いつまでも元気に過ごせています。



地域や歴史、伝統文化を大切に、世界に進展したグローバル化やテクノロジーに対応した教育都市へ。2040年代の港区は、学びを通して人と地域がつながり、未来をともに創るまちが実現しています。

1. MINATOビジョンとは

現行の計画体系では、基本計画と実施計画を一体的に策定しているものの、基本構想は独立して定めています。基本構想と各計画の連動性を高めるとともに、より一貫性のある区政運営を推進していくため、港区基本構想、港区基本計画、港区実施計画を統合した新たな総合計画として「MINATOビジョン」（以下「ビジョン」といいます。）を策定します。

2. 策定に向けた方向性

次の方向性を基に、ビジョンの検討を進めていきます。

計画体系の見直し等による効果性・効率性の向上

- (1) 基本構想、基本計画、実施計画の統合
 - ・基本構想、基本計画、実施計画を統合し、より一貫性のある区政運営の推進
- (2) 個別計画の位置付けの整理
 - ・各分野の幅広い方向性を示す計画を分野計画に位置付け
 - ・その他の計画を個別計画に位置づけ
- (3) ビジョン、分野計画、個別計画の構成の整理
 - ・ビジョン：2040年代に向けた将来像と政策・施策
 - ・分野計画：各分野における方針や取組
 - ・個別計画：分野におけるより具体的な取組
- (4) ビジョンと地区版計画書の一体化
 - ・地区版計画書は別冊ではなくビジョンと一体化
 - ・区民参画による地域事業は継承し、ビジョンに計上
- (5) 計画期間の設定
 - ・目標年次を2040年代に設定
 - ・改定期間は4年（分野計画・個別計画も法定等で期間に定めがあるものを除き、原則4年）

行政経営の一元化による経営力の強化

- (1) ビジョンと港区行政経営方針の統合
 - ・行政計画と行政経営との連動性を高めるため、ビジョンに行政経営方針を統合
- (2) 行政経営方針に紐づく個別計画等の位置付けの整理
 - ・行政経営方針の統合に伴い、紐づく財政運営方針等をビジョンの下位に位置付け
- (3) 財政計画の計画期間の変更
 - ・ビジョンの計画変更に伴い、財政計画の期間をこれまでの6年から4年に変更

事務事業との連動性・一貫性の向上

- (1) 計画事業の位置付け
 - ・現行の計画事業と同様、複数年度にわたって財源を担保し、年次計画により進める事業を計画事業と位置付け
- (2) その他事業の位置付け
 - ・計画事業以外の事業は毎年度の予算編成で将来像や政策・施策の実現に向けて事業構築を行うものとして位置付け
- (3) ビジョンと事務事業との関連性の見える化
 - ・毎年度、政策や施策ごとに事業名や目標、予算額を一覧化し、事業計画として公表

計画体系の見直しイメージ



3. 構成

(1) 将来像

全体	今を引き継ぎ、社会課題を乗り越え、未来を創る。 「歴史と未来」「都会と自然」「地域と世界」が交差し、一人ひとりが自分らしく、幸せに暮らせるまち
子ども・子育て	子どもたちとともに描く。 今を生きる子どもを未来へつなぐまち
福祉・保健	孤立させない地域の輪をつくる。 お互いが支え合い、一人ひとり自分らしく暮らせる健康福祉先進都市
街づくり	“ひと”をまんなかに“港区ならでは”をつくる。 これまでを紡ぎ、未来へ駆ける心躍るまち
環境・リサイクル	みんなの意識と行動が未来を変える。 自然が暮らしを彩るサステナブルシティ
防災・危機管理	今と未来を守るために備える。 住民同士が支え合う防災・危機管理モデルシティ
産業・地域振興	文化と芸術がまちを織りなす。 人と企業が共創するグローバル・クリエイティブシティ
教育	今日までを大切に、明日を考え、未来へ進む。 学びの種が芽を出し、世界へ伸びていく教育都市

- (2) 2040年代の社会動向等
- (3) 港区の人口想定と財政収支の見通し
- (4) リーディングプロジェクト
 - ア 少子化対策の推進
 - イ 人口変動への対応
 - ウ あらゆる危機への対応
 - エ 水辺空間の活用
 - オ DXの推進
- (5) 政策・施策
- (6) 行政経営の方針（行政経営方針とDX推進計画をビジョンに統合）
- (7) アクションプラン

4. 着眼点

次の着眼点を基に、政策・施策等を検討します。

- (1) 時代の変化を踏まえた、新たな視点による検討
- (2) 将来を見据えた検討
- (3) 政策評価結果を有効に活用
- (4) 区民参画による検討
- (5) 分野計画・個別計画との連動性の確保
- (6) EBPMの推進

5. その他

ビジョンと各分野計画の表紙等のデザインに共通性を持たせ、関連性が視覚的に伝わる構成とします。

MINATOビジョン策定方針

1 MINATOビジョンとは

区では基本計画と実施計画を一体的に策定しているものの、基本構想は独立して定めています。基本構想と各計画の連動性を高めるとともに、より一貫性のある区政運営を推進していくため、基本構想、基本計画、実施計画を統合した新たな総合計画として「MINATOビジョン」（以下「ビジョン」といいます。）を策定するものです。

「MINATOビジョン策定に向けた方向性について（令和6年12月12日付区長決定）」（以下「方向性」といいます。）において、計画の統合や計画体系の見直し等について示しており、この方向性を基にビジョンの検討を進めています。

これを策定の基礎としつつ、新たに将来像や分野横断施策等を示します。これらを併せて、ビジョン策定に向けた実務上の指針となる「MINATOビジョン策定方針」とします。

2 ビジョンの策定に向けた方向性

（1）計画体系の見直し等による効果性・効率性の向上

現在の区の計画体系は、基本構想、基本計画、実施計画、個別計画で構成されており、詳細かつ丁寧に内容を示す一方で、基本構想においては年数の経過とともに社会状況や区民ニーズとの乖離が生じる可能性があること、基本計画と個別計画で重複している内容を区民に分かりやすく整理する必要があることなど、各課題を解決し、これまで以上に効果性・効率性を高めるため、計画体系の見直し等を行います。

ア 基本構想、基本計画、実施計画の統合

区では基本計画と実施計画を一体的に策定しているものの、基本構想は独立して定めています。基本構想と各計画の連動性を高めるとともに、より一貫性のある区政運営を推進していくため、基本構想、基本計画、実施計画を統合した総合計画としてビジョンを策定します。ビジョンは、区政運営の最上位の構想・計画となるものであり、地域に関わる全ての人々の目標となる将来像や、その実現に向けて区が取り組む基本的な方向性を政策・施策により示す総合計画として位置付けます。

イ 個別計画の位置付けの整理

ビジョンで新たに設定する政策と各個別計画との整合を図るため、ビジョンに紐づく計画を整理する必要があります。そのため、各分野における幅広い方向性を示す個別計画（地域保健福祉計画、子ども・若者・子育て総合支援計画（令和6年度策定予定）、まちづくりマスタープラン、環境基本計画、地域防災計画、生活安全行動計画）を分野計画として位置付けます。なお、産業・地域振興及び教育分野については、計画の整理・統合等を検討し、分野計画となる計画を定めることとします。

その他の計画は個別計画としたうえで、分野計画の策定・改定と合わせて各計画の位置付けを整理することとします。なお、これまでと同様、各個別計画については、法律や計画の性質等を踏まえた上で、可能な限り整理・統合等を検討し、効果性・効率性の向上を図ります。

ウ ビジョン、分野計画、個別計画の構成の整理

各計画の構成については、基本構想や基本計画、個別計画で重複している内容を整理するため、ビジョンでは2040年代に向けた将来像と政策・施策を、分野計画では各分野における方針や取組を、個別計画ではより細かな分野における具体的な取組の内容を示すことを基本とします。その上で、計画の性質や法律の規定等を踏まえながら、各計画において効果的な構成を設定することとします。

エ ビジョンと地区版計画書の一体化

現在、各総合支所では基本計画の構成要素の一つとして地区版計画書を別冊で策定していますが、今後はビジョンと一体化します。これまでと同様、検討過程では各地区区民参画組織から地域事業等について提言を受け、区民意見を最大限ビジョンに反映していきます。

オ 目標年次の設定

目標年次は2040年代として設定し、将来人口を推計する港区人口ビジョンを改定するなど社会動向を見通しながら、ビジョンにおいて区の未来への確かな道筋を示すこととします。

ビジョンの計画期間は定めませんが、時勢を捉えながら施策を推進するため、定期的に改定を重ねることとし、改定期間については、より効果的にPDCAサイクルを運用できるよう政策評価の際に評価対象とする期間を確保するとともに、計画の推進にも力点を置くため、現行の基本計画の6年(3年見直し)ではなく4年とします。また、将来像や政策など2040年代まで一貫すべき普遍性の高い内容については見直しを行わず、施策や取組など短期的な視点も踏まえながら社会情勢を捉えて変更すべき内容を改定することとします。

なお、分野計画と個別計画についても、原則、目標年次は2040年代として設定するとともに、計画期間は4年とします。ただし、まちづくりマスタープランや公共施設マネジメント計画のように長期的な計画期間とすべきものや、子ども・若者・子育て総合支援計画のように法律で計画年数が定められている場合は、規定等に基づき設定することとします。

(2) 行政経営の一元化による経営力の強化

区の行政経営に関しては、基本構想、基本計画等とは別に、港区行政経営方針にて方向性を示しています。港区行政経営方針は、基本構想と基本計画を高度に実現するため、区の経営資源の効果的な活用に係る取組の方向性を示すものとして平成26年に策定されましたが、今後、区の計画行政と行政経営の連動性を高めて経営力を一層強化していくため、行政計画と行政経営の仕組みを一元化します。

ア ビジョンと港区行政経営方針の統合

港区行政経営方針は策定から約10年を経過しており、見直しの規定がなく、すでに達成している取組もある状況です。基本計画において、行政経営に係る施策も示しているところですが、今後一層、行政計画と行政経営との連動性を高め、区の経営力を強化するため、ビジョンに港区行政経営方針を統合することとし、今後の区役所・支所改革の方向性や人、物、財源、情報など経営資源の活用に関する考え方や施策を示します。

イ 行政経営方針に紐づく個別計画等の位置付けの整理

港区行政経営方針の統合に伴い、紐づく財政運営方針や人材育成方針等をビジョ

ンの下位に位置付けます。

ウ 財政計画の計画期間の変更

ビジョンの見直し期間を4年とすることに伴い、財政計画の期間はこれまでの6年から4年に変更します。

(3) 事務事業との連動性・一貫性の向上

現行の基本計画では、複数年度にわたって財源を担保して、年次計画により進める事業を計画事業として位置付けていますが、その他の事業については予算書上では小事業を政策・施策と紐づけているものの、計画上では関係性を示していません。ビジョンで示す政策・施策と事務事業との連動性や一貫性を高めるため、ビジョンと事務事業との関係性を明確にします。

ア 計画事業の位置付け

現行の計画事業と同様、施設や道路整備など、複数年度にわたって財源を担保して、年次計画により進める事業を計画事業と位置付け、ビジョンの中でアクションプランとして4か年の事業スケジュールや事業費を示すこととします。

イ その他事業の位置付け

計画事業以外の事業は毎年度の予算編成により構築するものであるため、複数年度事業のように計画事業としてビジョンに位置付けるのではなく、予算編成において、ビジョンの将来像や政策、施策の実現に向けて事業構築を行うものとして位置付けます。

ウ ビジョンと事務事業との関連性の見える化

ビジョンと事務事業の関係性を分かりやすく示すため、毎年度、港区議会にて当初予算が議決されたのち、政策や施策ごとに事業名や目標、予算額を一覧化し、事業計画として公表することとします。

3 ビジョンの構成

ビジョンの主な章構成は以下のとおりです。

(1) 将来像

ビジョンに掲げる「将来像」は、現行の基本構想部分に相当する計画体系の最上位に位置付けられる区の目指すまちの姿であり、今後設定する政策・施策等の出発点となる、ビジョンの根幹を成すものです。

なお、今後の社会情勢やビジョンのパブリックコメントでの意見を踏まえ、修正を行う場合があります。

(2) 2040年代の社会動向等

人口減少の進行や人口構造の変化により、生産年齢人口の減少を背景とした労働力不足や地域経済への影響等が懸念されています。こうした社会情勢を整理し、本計画策定の背景として示します。

(3) 港区の人口想定及び財政収支の見通し

将来の人口推計に基づく人口想定及び財政収支の見通しを示します。

(4) リーディングプロジェクト

現行の計画体系における将来像は、「かがやくまち」「はぐくむまち」「にぎわうまち」と包括的なものであったため、重点課題を設定し、政策・施策との関係性を明確にしています。

ビジョンにおいては、子ども・子育て、福祉・保健など、各分野の将来像を掲げ、将来像と政策・施策の関係性が明確であるため、これまでのような各分野に対応した重点課題は設定しません。

一方で、少子化や人口変動など、2040年代を見据え、高度化・複雑化する行政ニーズに対し、全庁を挙げて取り組む必要があることから、分野横断的な課題をリーディングプロジェクトとして新たに位置付けます。

ア 少子化対策の推進

子どもを持つことに不安などを感じている人や、子どもを持たない選択をしてきた人も含め、「子どもを生み、育てたい」と思える環境整備やきっかけづくりを通して、全ての人が幸せを感じながら安心して住み続けることができる港区の実現を目指します。

イ 人口変動への対応

人口増加や人口構造の変化を見据え、まちの発展と環境負荷の低減を両立させるとともに、障害や国籍などにかかわらず、子どもから高齢者まで、必要な支援やサービスを受けられる持続可能な社会の実現を目指します。

ウ あらゆる危機への対応

自然災害や感染症、社会経済情勢の変化など、あらゆる危機に対して区民の生命と暮らしを守るため、平時からの備えと対応力を高め、強靱な都市の実現を目指します。

エ 水辺空間の活用

観光や街づくり、環境、防災など、区の様々な分野における取組を行い、都心の貴重な地域資源である水辺を一層活用し、多くの人が親しめる空間を創出することで、都市としての魅力を高めることを目指します。

オ DXの推進

2040年代を見据え、AIやロボットなどの先端技術を区民サービスや情報発信、防災などのあらゆる分野で活用し、区民が利便性と安全性を常に実感できるような環境の実現を目指します。

(5) 政策・施策

将来像の実現に向け、政策・施策を立案します。

政策・施策に成果指標を設定し、PDCAサイクルを効果的に推進します。

なお、地域事業についても、新たに分野の政策と結び付けて整理することで、成果や効果を適切に評価します。

(6) 行政経営の方針

港区行政経営方針及び港区DX推進計画はその内容を行政経営の方針としてビジョンに統合し、廃止します。

(7) アクションプラン

財源を担保し、複数年度にかけて取り組む計画事業及び地域課題解決のために取り組む地域事業で構成します。

4 政策・施策等の検討に当たっての着眼点

政策・施策等を検討するに当たっての着眼点は以下のとおりです。

着眼点	内容
時代の変化を踏まえた、新たな視点による検討	これまでの計画の延長に留まらず、時代の変化を踏まえた新たな視点で、柔軟かつ積極的に検討します。
将来を見据えた検討	2040年代の港区の将来像から逆算して、政策・施策等を検討します。
政策評価結果を有効に活用	政策評価の結果や今後の方向性を策定に生かし、PDCAサイクルを適切かつ効果的に運用します。
区民参画による検討	令和7年度実施のアンケートやタウンフォーラムでの意見、令和8年度実施予定のアンケート結果等を検討に活用します。
分野計画・個別計画との連動性の確保	ビジョンの策定と並行して策定・改定する分野計画・個別計画と整合を図り、各計画を有機的に連動させます。
E B P M の推進	統計データや社会状況、他自治体の動向など、合理的根拠を基に策定に取り組むことで、ビジョンの有効性を高めます。

5 その他

ビジョンと各分野計画の冊子については、表紙等のデザインの色使い、レイアウト、トーン等に共通性を持たせます。なお、表紙等のデザインを同一のものとするのではなく、関連性が視覚的に伝わる構成とします。